



- ※ 新設雨水渠への放流管は、町が施工する（現在、町で設計中であり、追加資料4、5は、提案の前提条件として、布設位置や高さを下記の想定に基づき、設定したものである）。
- ※ 水路の現地盤高は、新設雨水渠（□2000×1200）の縦断面図を基に設定。
- ※ 敷地境界の位置は、現時点で想定で、事業用地西側の中心と設定。
- ※ 事業者施工と町施工の施工境界として、町が敷地境界から1.0mの箇所に1号組立人孔を設置するもの
- ※ 放流管の布設に当たって、既設の雨水渠は全て町が撤去する（下越し等は考慮していない）。
- ※ 放流管の断面は、流入管と同様にφ450mmとした。
- ※ 放流管の管種は、管渠の粗時係数nが流入管（VU）と同様の $n=0.010$ であるPRP（下水道用リブ付硬質塩化ビニル管）とした（設計図の通り）。
- ※ 放流管の勾配は、計画汚水量（ $Q=0.0695\text{m}^3/\text{sec}$ ）を余裕率100%で流下可能な勾配として1.5‰と設定（排水処理施設への流入管の条件と同様。流量計算書参照）。
- ※ 表記のDL： $DL=TP+0.875\text{m}$
- ※ 表記のFH（Formation Height）：管底高のこと。
- ※ 延長等は、設計図（平面図、縦断面図）を基に、スケールアップで設定。